期待を胸に新たな第一歩を踏み出す新隊員

栃木　新たな門出を祝う激励会を開催
厳粛な式典と祝賀演奏で新たな旅立ちを後押し

栃木地方協力本部は3月9日、宇都宮市内の栃木県教育会館において、栃木県自衛隊家族会をはじめとする県内の自衛隊協力5団体と共同で、令和6年度栃木県自衛隊入隊・入校激励会を実施しました。

当日は福田栃木県知事をはじめ、多くの来賓を迎え、今年度春に入隊・入校予定の68人の門出を祝いました。激励会は2部構成で行われ、第1部は厳粛な雰囲気の中での式典、第2部は和やかな雰囲気の祝賀演奏が実施されました。

第1部では、吉橋県家族会長のあいさつに続き、福田知事による祝辞や、中谷防衛大臣からの激励メッセージが放映されました。その後、入隊・入校予定者が配属先ごとに紹介され、海上自衛隊の先輩隊員から激励の言葉が贈られました。最後に、入隊・入校予定者が決意の言葉を述べると、会場からは大きな拍手が送られました。

第2部では、陸上自衛隊宇都宮駐屯地太鼓部「野州雷太鼓」による祝賀演奏が披露され、迫力ある音色が会場を包み、入隊・入校予定者たちの門出を華やかに彩りました。

翌3月10日には、栃木地本大田原地域事務所が那須町家族会および那須町とともに「那須町入隊激励会」を支援しました。コロナ禍の影響で那須町での激励会は5年ぶりの開催となり、さらに那須町からの入隊予定者が2年ぶりに誕生したこともあり、喜びに満ちた雰囲気の中で実施されました。

式典では、平山那須町長、齋藤那須町議会議長、佐藤那須町家族会長、および加藤本部長から激励の言葉が贈られ、入隊予定者は決意を新たにしている様子でした。誓いの言葉では「いざという時には地元に風返しができるよう、入隊後は頑張っていきたい」と熱い思いを語りました。参列したご家族も、真剣な表情で誓いの言葉に耳を傾け、温かく見守っていました。

決意の言葉を述べる代表者

静岡　入隊予定者18人が陸自武山駐屯地へ出発
家族や隊員が見送り、新たな門出を祝福

静岡地方協力本部は3月24日、静岡市の本部庁舎で入隊予定者の見送りを行いました。

この日、本部庁舎から旅立ったのは、陸上自衛隊武山駐屯地（神奈川県横須賀市）に一般曹候補生として入隊する静岡県中・西部地区の18人です。生活用品を詰めたリュックやスーツケースを手に、家族と共に緊張した面持ちで集まりました。

出発までの待ち時間、入隊予定者は待合室で激育隊の紹介映像を視聴したり、家族や地本の担当広報官と話をしたりしながら、これから始まる自衛隊での生活を思い描いていました。

駐屯地に向かうバスが到着すると、地本部員や見送りの人たちが2列に並び、バスに乗り込む入隊予定者達に温かい拍手と声援を送りました。

バスが発車すると、入隊予定者は窓を開けて手を振り、見送る人たちも「いってらっしゃい」「頑張って」と声をかけ、新たな門出を祝いつつ、別れを惜しんでいました。

手を振って見送る家族

奈良　若き精鋭たち、自衛隊へ踏み出す第一歩
激励会で決意を新たに、仲間とともに未来へ

奈良地方協力本部は3月8日、奈良県自衛隊家族会、奈良県防衛協会、奈良県隊友会と共催で「令和6年度自衛隊入隊・入校激励会」を開催しました。

県内の入隊・入校予定者31人をはじめ、保護者や関係者など約90人が出席しました。

入隊・入校予定者は受付では緊張した様子でしたが、広報官や仲間と話すうちに徐々に打ち解け、激励会が始まる頃にはリラックスした表情を見せていました。

激励会の冒頭では、中谷防衛大臣、山下奈良県知事、パリオリンピック柔道女子代表で奈良県出身の新添2等陸尉、元自衛官でお笑いタレントのやす子さんからのビデオメッセージが上映され、入隊・入校予定者へ激励の言葉が贈られました。

続いて、陸上自衛隊第4施設団長、海上自衛隊舞鶴地方総監代理の舞鶴激育隊司令、航空自衛隊幹部候補生学校長が登壇し、それぞれ祝辞を述べました。「厳しさを感じるかもしれませんが、へこたれずに乗り越え、成長していってください」「変化と挑戦の時代の日本を担っていく若き力になってください」「入隊・入校する同期の絆を大切にし、共に乗り越えてください」など、未来の自衛官たちへ熱いエールが贈られました。

また、奈良県出身の先輩隊員で陸上自衛隊第7施設群の桝谷3等陸曹が登壇し「入隊・入校を前に不安もあると思いますが、仲間と協力しながら一歩ずつ前へ進めば大丈夫です。これから皆さんは人を助け、支え、国を守る立場となります。一緒に頑張りましょう」と、経験者としての励ましの言葉を贈りました。

その後、海上自衛隊の一般幹部候補生および陸上自衛隊の一般曹候補生として入隊予定の2人が代表して壇上に立ち、保護者や関係者に向けて決意を表明しました。「日本を守るという任務を遂行するため、同期と力を合わせ、困難を乗り越えていきます」「今抱いている決意を忘れず、自衛官としての使命を果たします」と、それぞれ力強く誓いました。

最後に、航空自衛隊中部航空音楽隊が応援ソングや行進曲を演奏し、和やかな雰囲気の中で激励会を締めくくりました。

入隊・入校激励会での記念撮影

長野　未来への一歩を踏み出す入隊・入校激励会
入隊・入校予定者に向け、地域と家族が熱いエール

長野地方協力本部伊那地域事務所は3月9日、伊那市のニシザワいなっせホールにおいて、上伊那郡市自衛隊協力会連合会が主催する「上伊那地区入隊・入校予定者激励会」が開催されました。

今年度、上伊那地区から自衛隊に入隊・入校を予定している10人の若者が出席し、地元選出の国会議員など約60人が集まり、彼らの門出を祝いました。

式典では、宮下連合会長が「日々の厳しい訓練や規律の中で、精神力・体力を鍛え上げ、頼もしい自衛官になってくれることを期待します」とあいさつ。

その後、来賓の祝辞に続き、中谷防衛大臣、阿部長野県知事、長野県出身で航空自衛隊第11飛行隊（ブルーインパルス）隊長の江尻2等空佐によるビデオメッセージが上映され、最後に先輩隊員からの激励の言葉も贈られました。

また、祝賀演奏では、長野県伊那弥生ヶ丘高等学校器楽部の生徒25人が『新宝島』と『栄光の架橋』の2曲を披露。華やかな音楽が会場を彩り、激励会に華を添えました。

最後に、入隊・入校予定者を代表して、航空自衛隊の航空学生として入隊予定の伊藤さんが登壇し「支えてくれた人たちへの感謝を力に変え、どんな困難にも立ち向かい、必ずや立派な自衛官になります」と決意の言葉を述べ、会場は温かい拍手に包まれました。

あいさつをする伊藤さん（中央手前）

大阪　海上自衛隊練習艦隊の艦艇見学会を実施
募集対象者と保護者が阪神基地で特別な体験

大阪地方協力本部は3月20日と21日の両日、海上自衛隊阪神基地（兵庫県神戸市）において実施された練習艦隊の艦艇見学に、募集対象者などを案内しました。

このイベントは、練習艦隊の寄港にあわせて海上自衛隊阪神基地隊が企画したもので、大阪地本からは募集対象者や保護者など40人が参加しました。

当日は、晴れ渡った神戸の空の下、阪神基地隊の岸壁に練習艦隊4隻が揃うという普段は見ることのできない光景に参加者は感嘆の声をあげていました。

艦内では、艦艇の性能や活動に関する分かりやすいブリーフィングが行われ、見学ルート上に配置された艦艇乗員の丁寧で分かりやすい説明に参加者は熱心に耳を傾けました。

また、艦上の装備や艦内の施設もくまなく案内され、特別感も相まって、参加者全員が笑顔で艦を満喫しました。

さらに、大学生を対象とした幹部自衛官との懇談会も実施され、参加者は自衛官を志望した動機や艦内での職務ややりがいについて熱心に耳を傾けました。艦内での生活や入隊に向けた準備についても活発な質問が飛び交い、案内した地本部員も募集活動につながる手応えを感じることができました。

参加者からは「海上自衛隊に興味があったので実際に乗れて大満足です」「海上自衛官という職業に興味がわいてきました」「制服を着た自衛官とお話ができて楽しかったです」など、多くの肯定的な声が聞かれました。

また、艦艇乗員も艦を降りる参加者に「帽振れ」で見送るなど、自衛官、参加者全員が大満足の艦艇見学となりました。

甲板上で装備品の説明を受ける参加者

神奈川　湘南医療福祉専門学校で就職ガイダンス
自衛隊のキャリアに関心を寄せる学生たち

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所は2月26日、湘南医療福祉専門学校（横浜市）で開催された就職ガイダンスに参加しました。

進路を意識し始めた救急救命科の2年生26人がリクルートスーツに身を包み、真剣な表情で説明に聞き入っていました。

自衛隊横須賀病院教育部救急救命士課程の教官2人から海上自衛隊衛生員の教育体系や勤務環境について説明を受けると、学生たちはメモを取りながら、自衛隊でのキャリアの可能性を真剣に考える姿が見られました。

特定の条件下で5つの救急救命行為が実施できる「第一線救護衛生員」についての説明では、自衛隊にも救急救命士として活動できる職域があることを初めて知った学生が多く、新たなキャリアの選択肢に気付き、具体的な質問を重ねる姿が印象的でした。

説明終了後も、試験対策や実際の勤務環境についての具体的な質問が相次ぎ、広報官がそれぞれ丁寧に対応しました。

参加者からは「教育体系がしっかり整備されている」「他の職場では体験できないことを経験できる」「手当なども充実している」など、自衛隊という選択肢が現実的なものとして捉えられる機会となりました。

真剣に説明に聞き入る専門学校生

Going! PCO

熊本　創隊記念行事での自衛隊広報活動
多彩な体験企画で来場者を魅了

熊本地方協力本部は3月2日、陸上自衛隊健軍駐屯地で開催された「西部方面隊創隊69周年記念行事」において、海上・航空自衛隊とともに募集広報ブースを出展しました。

当日は時折雨が降ったものの、多くの来場者が訪れ、各種イベントを楽しんでいました。

熊本地本のブースでは、自衛隊の魅力を伝えるさまざまな体験企画が実施されました。缶バッジ抽選では、10式戦車の体験搭乗が当たるチャンスがあり、当選者はベルの音とともに歓声を上げていました。また、制服試着コーナーでは、多くの人が思い思いの制服を選び「どれにしようか迷う」「次はこれを着て写真を撮りたい」と楽しんでいました。試着した来場者の中には、迷彩服を着たくまモンのエアバルーンや19式装輪自走155㎜りゅう弾砲と一緒に記念撮影をする姿も見られました。

来場者用のパンフレットも多数用意されていましたが、予想以上の反響で早々に配布終了となりました。

「自衛官候補生になるには？」「パイロットを目指したいので相談したい」といった具体的な質問や相談も寄せられ、担当者が一つ一つ丁寧に対応しました。熊本地本のブースを訪れた人たちは、疑問や不安が解消された様子で、満足そうにその場を後にしました。

くまモンとの記念撮影

大阪　専門学校生が自衛隊募集広告の制作に協力
感謝の意を込めて学生2人に感謝状を贈呈

大阪地方協力本部は2月18日、大阪合同庁舎において、学校法人大原学園大阪情報クリエイター専門学校の1年生2人に感謝状を贈呈しました。

大阪地本ナンパ募集案内所は、同校と平素から募集活動に関する連携を図っており、進路相談などを通じて自衛隊の魅力を伝えています。

また、ナンパ募集案内所は、大規模同人誌即売イベント「こみっく☆トレジャー」に毎回出展しオフィシャルガイドブックへ自衛隊募集広告を掲載しています。

今回は、その広告の制作にあたり、同校の学生がイラストを提供してくれたことへの感謝の気持ちを込め、感謝状を贈りました。

「こみっく☆トレジャー」のオフィシャルガイドブックには、同校1年生の田原瑞瞳（みんと）さんと手塚翔（つばさ）さんがイラストを提供。広告は見開き2ページにわたり掲載され、多くの来場者の目に触れることとなりました。

安田本部長から田原さん、手塚さんに感謝状が手渡され「来場者の関心を引く独創的なデザインで自衛隊を表現し、広報活動に大きく貢献いただきました」との言葉が贈られました。

田原さんと手塚さんは少し緊張した様子でしたが、直接感謝の気持ちを伝えられ、誇らしげな表情を見せていました。式の後には、本部長との記念撮影や懇談の場も設けられました。田原さんは「自衛隊の方と話す機会ができて、最初は緊張しましたが、皆さん優しくて安心しました」と笑顔で語り、手塚さんも「これからも機会があれば協力したいです」と前向きなコメントを寄せてくれました。

この交流をきっかけに、今後も同校との連携を深め、若い世代へ自衛隊の魅力を伝えていければと思います。

安田本部長から感謝状を贈呈

京都　自衛隊が試合会場で広報活動
音楽隊と五輪メダリストが共演

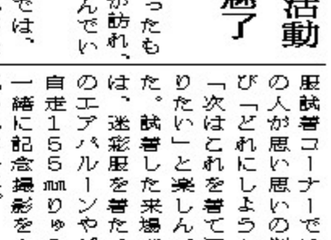
京都地方協力本部は3月23日、バスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」の依頼を受け、根拠地・かたおかアリーナ京都で海上自衛隊舞鶴音楽隊（隊長・渡邊大海1等海尉）の協力を得て広報活動を実施しました。

ハーフタイムでは、舞鶴音楽隊がJポップナンバー『風になりたい』を演奏し、華やかに登場。続く2曲目では、チームのオフィシャルチアダンサー「はんなりん」とマスコット「はんニャリン」、さらに舞鶴地方隊のマスコット「マイチくん」「マイコちゃん」も加わり、ダンスナンバーのメドレーで音楽隊とコラボレーションし、会場を大いに盛り上げました。

また、リクルーターで自衛隊体育学校所属のパリ五輪銀メダリスト・高谷大地1等陸尉が登場。「一緒に試合を盛り上げていきましょう」と熱いメッセージを送り、約4100人の観客を魅了。ハーフタイムに華を添えました。

高谷1尉は、ハーフタイム出演に加えて開場時にも来場者を出迎え、写真撮影や銀メダルの展示などを実施。メダリストとのふれあいを求める来場者の列は絶えることなく、会場は終始にぎわいを見せました。

場外エリアでは舞鶴地方総監部および舞鶴水中処分隊の協力の下、広報ブースを設置。水中処分隊のボートや装備品など、日頃目にする機会の少ない展示に、来場者は興味津々で楽しむ様子がうかがえました。


舞鶴音楽隊によるハーフタイム演奏

岩手　宮古小学校で防災学習を実施
地本が地域と連携し、防災意識向上を支援

岩手地方協力本部は3月7日、宮古市立宮古小学校の4年生29人を対象とした防災学習を支援しました。

この防災学習は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を忘れず、防災意識を高めることを目的に、同校が毎年実施しているものです。

今回は、宮古市の地域コーディネーター（※）を通じて、岩手地方協力本部へ支援の依頼がありました。

当日は、宮古地域事務所から3人が参加し、児童たちに地震発生時の行動、毛布や棒を使った応急担架の作成、新聞紙スリッパの作成、負傷時の応急処置について指導しました。児童たちは、津波について写真や映像で見たことはあっても、実際の被害を直接経験したことがなく、地震発生時や津波警報が出た際の行動をクイズ形式で学びながら理解を深めました。

また、毛布と棒で作った応急担架を実際に使用した搬送体験を行いました。

応急処置体験では、簡易的な止血法や、指を骨折した際に木の枝や鉛筆で固定する方法を学ぶなど、短時間で多くの知識を得ることができました。後日、児童たちからは「自宅で作って家族にも教えた」「けが人が出たら応急担架や応急処置で助けたい」といった感想が寄せられ、防災意識の高まりが感じられました。

今回の防災学習は災害発生時に自分自身や周囲の人々を守る「自助・共助」の重要性を、実践を通じて学ぶ貴重な機会となりました。

※地域コーディネーター：地域と行政、関係機関をつなぐ役割を担い、学校と地域が連携しながら子供たちを育てる活動の調整や支援を行っています。

作成した応急担架で搬送体験

兵庫　「ひょうご安全の日のつどい」に参加
自衛隊が防災意識の向上に貢献

兵庫地方協力本部は1月17日に開催される防災関連のイベントで、今年は阪神・淡路大震災からの復興30年にあたることから、例年よりも規模を拡大して実施されました。

自衛隊からは、兵庫地本と海上自衛隊阪神基地隊が広報ブースを出展。会場のなぎさ公園が海に面していることから、海上自衛隊の協力の下、広報ブースを設置。水中処分隊のボートや装備品など、日頃目にする機会の少ない展示に、来場者は興味津々で楽しむ様子がうかがえました。

この行事は、毎年1月17日に開催されるご安全の日推進県民会議主催の「ひょうご安全の日のつどい」に参加しました。

また、陸上自衛隊中部方面特科連隊は装備品の展示とともに、野外炊具1号を使用した炊き出しを実施。レトルトカレーと炊飯したお米をカレーライスとして750人に提供しました。

兵庫地本は、会場で「阪神・淡路大震災における自衛隊の記録映像」を上映しました。この映像は、震災を知らない世代に当時の経験を伝え、防災意識を高めることを目的としたもので、来場者の中には当時を思い出し、涙を流す方の姿も見られました。

また福森本部長は「1・17のつどい－阪神・淡路大震災30年追悼式典－」に参列し、震災で犠牲となった方々に哀悼の意を表し、献花を行いました。

エアクッション艇（LCAC）が停泊・展示され、多くの来場者の関心を集めました。

停泊・展示中のエアクッション艇

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋　隆志(たかはし　たかし)
◇電　話 :03－5227－2468　（平日 09:00～16:00）
◇メール :jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　銀治　雅和(かじ　まさかず)
◇番　号 :080－4630－8987　（平日 09:00～16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名(匿名可)」「所属家族会(部隊等)」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役職・氏名	担当内容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚　信一(てづか　しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に陸上自衛隊)
家族会理事(海自OB) 銀治　雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に海上自衛隊)
家族会理事(空自OB) 荒木　淳一(あらき　じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に航空自衛隊)
家族会副会長(陸自OB) 宮下　寿広(みやした　としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！